

ポストドク研究員、研究大学教員としてのキャリア追求に対する関心が  
顕著に低下することが判明（11月19日）

国立がん研究所（National Cancer Institute：NCI）に所属するがん予防フェローのケネス・ギブス氏（Kenneth D. Gibbs）らは、オンラインジャーナルのCBE ライフサイエンス・エデュケーション（CBE Life Sciences Education）において、生物医学分野におけるポストドク研究員の職業選択に関する論文「米国における生物医学分野のポストドク研究員に見られるキャリア開発（Career Development among American Biomedical Postdocs）」を発表した。本論文は、生物医学分野のポストドク研究員 1,002 人が回答したオンライン調査の結果に基づいてまとめられたものである。これによると、大半のポストドク研究員は、所属機関から体系的なキャリア開発の機会を提供されているが、大学院から同様の機会が提供されたと回答したのは3分の1以下に留まることが明らかにされた。また、ポストドク研究員は、経歴に関わらず、研究大学における教員としてのキャリア追求に対する関心が顕著に低下し、教員以外のキャリアへの関心が高まることが明らかになった。

なお、本論文は<<http://www.lifescied.org/content/14/4/ar44.full.pdf+html>>からダウンロード可能。

Inside Higher ED, *No Career Clarity*

<https://www.insidehighered.com/news/2015/11/19/report-postdocs-lose-clarity-about-career-goals>